

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者：有限会社 星太染工

排出削減事業共同実施者名：株式会社 FTカーボン

その他関連事業者名：株式会社 日本サーモエナー

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	有限会社 星太染工
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	有限会社 星太染工
住所	群馬県桐生市東3丁目5番3号
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	株式会社F Tカーボン
その他関連事業者（注）	
関連事業者名	株式会社 日本サーモエナー

（注）その他関連事業者とは、排出削減事業共同実施者とは別に、排出削減に寄与する設備機器の生産・販売者、国内クレジットの創出コストの低減を図る事業の集約を行う者等をいう。

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラー3台を都市ガスボイラー2台へ更新する。ボイラー更新を実施することにより、ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO<sub>2</sub> 排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油ボイラーは、経年劣化及びすすの付着等によってボイラー効率が悪化しているため、新しい都市ガスボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO<sub>2</sub> 排出量を削減する。さらに、都市ガスはA 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することによりCO<sub>2</sub> 排出量を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008年11月1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～2015年8月31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は使用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は使用しない。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

重油ボイラーから都市ガスボイラーに更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	ボイラー都市ガス使用量	m3 Nm3	330,357 (321,239)	都市ガス会社の請求書 (ガス使用量×0.9724)	
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千Nm3	44.0	J-クレジット制度のデフォルト値	
$\epsilon_{\text{PJ-1}}$	事業実施後 NO1 ボイラー効率	%	85.88 (高位発熱量)	ボイラー管理会社が測定した直近のボイラー効率	
$\epsilon_{\text{PJ-2}}$	事業実施後 NO2 ボイラー効率	%	86.09 (高位発熱量)	ボイラー管理会社が測定した直近のボイラー効率	
$\epsilon_{\text{BL}}$	事業実施前 A 重油ボイラー効率	%	85.70	実績値	
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO2/GJ	0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO2/GJ	0.0517	J-クレジット制度のデフォルト値	

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
321,239 (Nm3)	0.0440(GJ/Nm3)	0.0517(t-CO2/GJ)	
EM <sub>PJ</sub>			730.8 (t-CO2)

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
321,239 (Nm3)	0.0440(GJ/Nm3)	0.0708(t-CO2/GJ)	
85.88 (%)			
86.09 (%)			
85.70 (%)			
EM <sub>BL</sub>			1,004.0 (t-CO2)

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	EM <sub>BL</sub>	1,004.0
事業実施後排出量	(7.1)	EM <sub>PJ</sub>	730.8
リークージ排出量	(7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量		ER	273

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)

## 8 再生可能エネルギー利用量

再生可能エネルギーは利用していない。

	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)